

orero



No.48 水不足が心配号！

今年は走りません。
久しぶりに夏のキャンプが！！

かぼちゃが消えた
今年、煙が肥沃で作物が思いがけず豊作で、私たちだけでなく近所の人たちの目を惹きつけてくれる。ところが丸々と消えた。近所のおばあさんやモンマーのおかあさんが「かぼちゃがない」と騒ぎだし、近所にうわさがひろまり、「監視カメラで見張ったら」と言い出すおじさんがいた。で、ちよつとした地域のニュースになっているが、まあおいしく食べてくれる人がいたらいいじゃないかと僕は考えている。

禁煙 二十二時間
咳と痰が止まらない、微熱もあり、内科受診。「うーんまだ肺炎にはなっていないが、しばらく安静に」。一念発起すしただけ喫煙ストップ、でも咳がおさまってきて、自然にライターを握っていた。喫煙は僕の健康のバロメーターかも。

カンパありがとうございました！

光葉 啓一	中嶋 正彦
倉橋 妙子	鈴木 シゲ子
松下 和実	高橋 進吾
玉木 哲郎	羽下 大信
竹林 由佳	高野 ふくろ

(順不同、敬称略)

郵便振込み

01120-9-81163
神戸フリースクール

メンタルフレンド派遣しまあ〜す！

『心の友』・・・なんて大げさなものではないけれど、「不登校してて、ひとりで過ごしてるのがつまんな〜い」って思っている子どもたちのもとへ遊びに行くおにいさん・おねえさんがフリースクールで待ってま〜す！子どもたちの希望にあわせて、ピッタリの人を選びます。

顔合わせの上で決定しますから、ご安心を。

お問い合わせは、神戸フリースクールか

不登校ネットワーク兵庫(078-366-0367)まで。

ホームページ <http://www.freeshool.jp/friend/>

フィリピンが呼んでいるー

ー緊急カンパのお願いー

3年前桑原さんの案内で、フィリピンの片田舎にホームステイさせていただき、いくつかの学校を訪問することができた。最後に訪れた村から歩いてすぐの高校では、校長以下教師たちと親しく交流することができた。丁度話し合っている最中に激しいスコールがやってきて、いつともフィリピンでは日常的なことだが、渡り廊下の敗れたトコから滝のように雨水があふれ落ちていた。その滝の下を学生たちが下敷きを頭にして、びしょびしょになりながら、移動している。「トコぐらいナオせよ」と思っている瞬間、口から出てしまった。「次にぼくが来るとき、このトコ修理しますから」と。校長はここにこ頼んでいた。そしてつい先日フィリピンからもどってきた桑原さんのメールに「あの村の校長が、あの人来ませんね」と言っていたよ。たまげたな、学校の渡り廊ぐらい校長がナオしたらいいのに。いや約束したのはぼくだから当然のごとくぼくを俟ってるんだ。うーん(+)どうしよう？すこし悩んだ末、今年はぼくも行くことにしました。数人の子どもたちも行く気になっており、スタッフのチクリンが同行してくれるというので安心です。またあのにぎやかな村で、どっぷりアジアに染まってみようとおもいます。

さて、フィリピンの高校のトコの修理代に役10万円が必要です。またわれわれの渡航費も不足しており、桑原さんに分割払いをお願いしているところ。です。「よし、そのプロジェクトに一口のつた」と思われた方、ぜひカンパよろしくお願いします。あつかましいお願いですが、郵便振込み用紙を同封させていただきます。また「おれも行ってみたい」と思われる方がありましたら、まだ人員に余裕があります。ぜひお声をかけてください。

H.P - WWW.FREESCHOOL.JP/KFS

MAIL - TOKASYA@HOTMAIL.COM

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

住所・兵庫県 神戸市 中央区 下山手通 8丁目 8-10



KOBE FREE SCHOOL

考えるたね

フリースクールからオーレロ通信への原稿依頼のFaxが……

えっ？また？オーレロ通信ってここ今までの何年か分っていう位セッセと出しているのでは？たまに書くのだったら「いーよー」と気楽に引き受けた私が甘かった。それなら根性入れ直してちゃんと私なりの「題」もつけて書こうと思いました。今まではその時その時田辺さんかちくりんにおまかせでしたが、これでいこうという言葉がみつかり「考えるたね」ということにしました。私の紹介した本を読んでもらったり、書いた内容についてどんなことでもいいからその人の何か考えるきっかけにしてもらえたらという意味と、もうひとつは学校や人との折り合いがうまくいなくて、しんどくて自分の中でいろいろ考える種＝子ども達という意味。

自分なりの芽を出して、生き生きとした双葉を開いて、ゆっくり伸びて木になっていく子ども達。誰かが栄養たっぷりのお水をかけてくれたり、人工の光をあててくれるのではなく、自分で水をやりたり、栄養になりそうなものを探しているためしてみたり、大変だけれどひとつひとつ皆違う「自分らしい」芽を出すために苦労している子ども達。何もしてあげられないけど、いつも近くで見守ってるよ。芽が出てくるの楽しみに待ってるからね。ゆっくり、じっくり「たね」の時に考えたり悩んだりしてね。そういう私だって、歳だけは毎年とるけれど、もしかしたら種のままかもしれない！いろんな本読んであーだこーだと自分の中でばっかりやって種の皮が硬くなってしまって芽も出なくなってる？！まあ中にはそんな種もあり、という事です。

林竹二さんの『教育の根底にあるもの』という著書の中に「学ぶということは変わること」という言葉があります。「学ぶ」というのは何も学校でする勉強とかテストのことじゃなくて、自分でみつけるもの。いろんなところに「考えるたね」は落ちています。いろいろ考えて、学んで、自分らしく変わっていきましょう。

まずは選挙も近い事だし、政治？！！と毛嫌いせずに、気がつけば息子が（又は自分が）徴兵でイラクへ行かされる事になっちゃった、なんてとりかえしのつかない事にならないように、政見放送見たり、公約読んだり、テレビ討論見たり『せすに』自分は何を求めて、何を大切に思うのか、じっくり考えて行動しましょう。子ども達も「子どもの権利条約」の権利を有効に使って、ゆっくり休んで「たね」（自分）を大事にしていこう。

大石 寿子



この時代に生きて

田辺 克之

この時代をぼくらは生きています。何億年か何10億年かは知らないけれど、この時代にぼくらはいのちを引き継いでいる連綿と続くいのちを受け継ぐものがないと絶えてしまう。「親からもらったいのちを粗末にするな」とよく言われるが、親はまたその親からもらったわけで、親の独占物ではない。だからいのちは親からもらったというより、親から譲り受けたというか、引き継いだわけである。それなら親は「われわれが大事に引き継いできたものを、きみたちにまかせたので、よろしくたのむ」と言うのがいいかもしれない。

とここで、親たちはそのいのちを大事に育んできたのか？つまりしっかり生きてきたのか？子どもの生き方に注文をつける前に、親たちの生き方が問われることになる。ぼくもこの時代を、同時代人たちと生きている。古代からのいのちを引き継いでいるのだ。引き継いだいのちをどう使うかは各人にゆだねられ、いのちを有するものの責任で次の時代につないでいく。戦争はいいのちが、このまま公害を出しつづけていいのか、教育がこのまま子どもの自主性や多様性を認めず管理教育に終始していいのか、ぼくらは、その都度しっかりと判断して進まなければならない。

ここの50年で社会の変化は目まぐるしく、きのうあたりまえだったことがゴロツつと変わってしまった。日常の連続である。こんな変動の時代に生きて、おもしろいと言えばおもしろいけど、憲法や教育基本法などの改悪で人権の根本がゆらいでくると、こにこばかりはしていいれない。どんどん右傾

京都からの便り

神戸フリースクールのみんなへ



木村 蘭

先週の水曜日は久しぶりに元気なみんなと会えてうれしかった。やっぱりKFSはいいなあ。ここ何日か、ほんとに暑いよね。このまえ京都で36度まで気温が上がった日があった。その時はもう溶けそうだった。せみも鳴きだして、いよいよ夏って感じやわ。7日の七夕の日は、みんな短冊に願いをかけたんだ？どんななん書いたのかなあ？私は七夕というものをすっかり忘れてたけど、もし願い事をするのなら、「単位を落とせませんように！」これのみよ！ほんまやばいんよ。試験が近いのにまだ何もしてへんし。淡路行ってる場合じゃないって、いや、行くけど、ね、もちろん、日々、がんばって勉強するわ。夏の暑さに負けず！みんなも夏バテとか夏風邪に気を付けて、元気にすごしてね。

めいちゃん、予定表いつも送ってくれてありがと！う☆あやちゃんもいつもかわいいう予定表作ってくれてご苦労さま☆楽しそうなお話も淡路行けるし、キャンプも行けるし、楽しみやなあ。夏休みをenjoyするために、授業中、寝ないように、がんばるわ。3限目（お昼の後）は睡魔との戦いやけど。じゃあまた、17日に、みんなと会えるのを楽しみにしてるわ。

明石海峡を

臨みながら
ちくりん

何度か明石について書いていますが、ちょうど1年ほど過ぎたところでもうひとこと。

晴れた日には明石海峡を眺めながらお料理。そしてみんなでお食事を楽しまします。人数も少ないので(今はね)、まるで家族のよう。

神戸は神戸でにぎやかな楽しさがあるからいつもワクワクしたり、ドキドキするんだけど、明石は明石で静かな雰囲気。ワタシは好きです。まだまだメンバーが増えなくて、「開けたからには」「そういう思いがあるのは否めないけれど、それは本末転倒な」とだと自戒したりもします。まずは自分たちの楽しい場所にしなくちゃ、人に勧めることなんてできないわけなんです。田辺先生がまた明石でフリースクールを開けたと言った気

持ちも大切にしたいなあと思うのです。だから、気長にフリースクールと明石に付き合ってみたいと思うのであります。一緒にやってくれているめいちゃんたちにも、気長に付き合ってくださいなあと思っています。よろしくね。

いちゃりば
ちよーでー
(出逢えば皆兄弟)

沖縄家庭料理 尚香の会
吉田 香

7月2日。この日は、今年の空梅雨にもまして台風が近づいていたせいか、湿った風がビルの合間を通り抜け、そして、カンカンと日が照りつける。とてもじゃないけど、熱い。沖縄そばを食べるようなお天気ではないさ！
そうそう、今日は神戸フリースクールの子供達と、沖縄そばを一緒に作って食べよう！と言う企画。

それも麺は手打ちで。5月のとある日。明石の寺子屋で田辺先生とフリースクールの生徒さん達と出会い、まだまだ、尚香の会を立ち上げてバタバタしてる私に、「子供達と一緒に沖縄そば作りやつてくれないか？」とお声をかけて下さいました。「ハイ。いいですよ！」と二つ返事で引き受けたものの、うーん、うまくできるかなあ。不安半分、後悔半分。でも、やるからにはよー、一生懸命、みんなと楽しんで、美味しく食べられたいさーと、気持ち入れ替えてからに、家で試行錯誤練習して、この日に備えたわけ。

部屋に入ってきた、フリースクールのみんなの笑顔と元気な声を聞いてからさ、なんとなく、ホットしたわけよー。沖縄そばの麺作りや、サーターアングター作り、みんながワイワイ、ガヤガヤ、粉だらけになりながら、みんなで作った沖縄そばはまた格別なモノになったさ。

そして、沖縄そばを通して、少しでも沖縄を知ってみたい！というキツカケになつてくれたらなあ、と思つたわけ。

最後に、このような場を与えて下さった、田辺先生、スタッフのちくりんさんをはじめ、フリースクールの皆さんに感謝してるさ。本当にありがとね！



AFS 屋上にて

TERAの
珍しく忙しい一日

先日、KFSの近所の地域センターにて、『ふりーすくーりんぐ』という、関西・主に阪神間のフリースクールなどが集まって、なにかをしようという団体(自分は詳しくないので上手く説明できません)の集まりに、何故か少しだけ参加させてもらった。不登校新聞の石井志昂君が大阪に移ってきたらしく、久々に会ったので健太と三人でむさ苦しい飲み会をしたりしたのだが、まあ、その話は割愛させていただく。

閑話休題。

その『ふりーすくーりんぐ』の席で、ふーらいふの中林さんが、PCが壊れて困っている。とおっしゃって、うちの代表が「テラ、お前行って直して来いや」と言い出したのが、そのそのその間違った……もとい始まり。

あれやこれやという間に、結局次の日(飲み会明)の朝、単車で垂水まで出向いてPCを直す事になってしまい、ケースをあけたらいろいろしながら、途中に中央体育館までバレーをやりに帰る、それからもう一度ふーらいふ戻ってなるとか無事に作業を終えることが出来た。まあ、再起不能にしてしまうような事がなくて良かったと思う。いつも暇してる反動か、珍しく忙しい一日であつた。

明石 フリースクールには、開校から1年になるけど、いまはのんびり(いい意味で)して、明日もいこうって。あ、いいですネエ。そうすね。神戸とは、ちがう。ふーらいふもあって、明石にもみよくなさ。ふーらいふです。最高!! 最高!! 最高!! 明石は、とっつきいい。神戸は、もっともっといいヨ。めいめいめい



▲ 2004. 7. 6 完成したばかりの畑のテラスで記念撮影

Part of the Asia Philippine.

Takuya Hashimoto

I went to the Philippines around three years ago, that time I was just visit the country. Location of the Philippine is North East of Japan, Main lands are Luzon and Mindanao but country is gathering by seven thousand islands. When I visit the Philippines, I was shock by the People, the history, and the food, I was already thinking about transferring to the Philippines. Philippine is part of the Asia and Japan also Asia but both countries doesn't have any in common. Most of the things are completely different.

Philippines is concurred by Spanish for around three hundred years. After that, American and Japanese. So most of Philippine has kind of Spain culture and a little bit of American and Japanese cultures. I believe that first time I felt Philippine culture is when I went to up to the Baguio City, because its city still has native culture but it was three years ago. Now?? Baguio is begging to be like Manila (center of Philippines) which I hate it.

Philippine food is so tropical, oily and so many fries cause there is no oil like Japan in the fish. If you don't know where to eat, you are destiny will be straight to the bath room. But Philippines has so many fruits and vegetables that I ever see in Japan. Taste of food is sour or strong.

People in the Philippines are just one word "friendly" in other word "pestered". If you met once other person, he/she will be your friend. They know respect and manner.

I think after you read my point's of view, you are wondering why? WHY I am in the Philippines. Cause most of my impression Philippine is not that good.....honestly bad. But those impressions are only my thought (mind). Philippine is country, and not Japan. There are ssss-sooooooooooooo many great things that I can't even explain. I decided to study there because something that different from Japan and in the Philippines pulled me there and that something is only people that went to there can feel soon. I just simply in love the way Philippine am right now.

※現在フィリピン留学から夏休み帰省中のハッシンが、原稿を寄せてくれました。

フリースクールを
体験して

田野 あきら

僕がフリースクールを一周間体験してみても、一番印象に残ったのは僕の思っていたフリースクールと全く違っていた事である。

僕の思っていたフリースクールというものは、ドラマ「キッズ・ウォー」に出てくるような、暗く寂しい感じだったのに、その思い込みはみごとに打ち砕かれた。

というのは、まずフリースクールのみんなの明るさ、時間のルーズさ、僕が今まで行っていた公立の中学校とはかけ離れた別世界だった。しかもこのフリースクールは僕がはじめて行った中学校とは違って一日でみんなとなじめたことに僕は感動した。

一周間のフリースクールを体験して僕は思ったのだが、一般的にフリースクールと聞くと今の日本人のほとんどが悪いイメージを

もつ。僕もそうだったがそれは間違っていると思う。みんなが思っているほどフリースクールは暗いところでも寂しいところでもないという事を週間フリースクールを体験して思った。



記憶は...

大槻 みらい

「なんで人間はすぐ死ぬんだらう」
「何回その質問をくりかえしている？」

最初の人はこの数日間この質問しかしていなかった。

「なんでだろう。もう少し強かったら、もっと長くとりつけたのに……」

「しかたがないさ」
この二人は、人間ではな

かった。

それは何なのか？
「自分にあつた人間の体を見つけて、ほとんど無理なこと言うよね。閻魔様は」

「そうだな」

ギー

ドアの開く音がした。

「おはようございます。閻魔様」

「……」

閻魔といわれた人？は何も言わずに、

「無理なことを言ってるかつたな」

と言もらしたただだった。役にたつ道具をもつて来たのにそんな事言うやつには、やらんぞ」

閻魔は、子供みたいなやつだ。

「すみません」

「まあいいか。リーダーだ。自分にあつた人間をこれ

でさがせ」

「はい。わかりました」

二人？が声をそろえて言った。

「なんにも反応がないって事は、自分にあつた人間が

いないって事かな？」

「そうだろうな」

二人は、肩をすくめた。

ピピッ、ピピッ、ピピッ……。

すごい音が地下でひびいた。

「なんの音だ？」

音に負けないぐらいの大声でさけんでもはつきりとは聞こえなかった。

「これの音かな？」

リーダーを見ると光っていた。

「止めるには、Pというスイ

ッチだ」

どこからかそんな声がした。

スイッチをおしたら、けた

たましい音が止まった。

「この光っているのがそう

か」

「さて行くか」

そういったあと、二人とも

きえていた。

……

この後二人は、人がしらない

うちに、体に入っていた

もしかしたら、あなたの

中に二人のうち一人が入っ

ているかもしれせん。

時々、きおくがなくなる

ことがある人は、ご注意し

てください。